

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 北九州市藤松小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒800-0047

北九州市門司区藤松一丁目 19-1

E-mail fujimatsu-e@kita9.ed.jp

Website http://www.kita9.ed.jp/fujimatsu-e/

幼児児童生徒数 男子 122 名 女子 107 名 合計 229 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を学校理念として ESD を「持続可能な開発のための教育」と捉え、自然や社会、人とどう関わらせるのか、また、「自分の立てた計画に従って主体的に行動する力」「物事を多面的・総合的に考える力」「他者の考えのよさを認め、自分の考えをよりよくしていこうとする力」を育成するにはどうするのかなどを念頭に置いた指導に取り組んでいる。

具体的には、伝統文化の継承、防災、環境を柱に、①伝統文化に係わる活動、②防災に係わる教育、③環境に係わる学習を行った。

### ① 伝統文化の継承に係わる活動

クラブ活動：本校のクラブ活動は、お花を生けたり、お茶を点てたりするカルチャークラブ、囲碁・将棋をするゲームクラブがある。お花は地域の「生け花山月」流の先生が来られ、お花の生け方を児童に教えている。また、毎週、玄関に花を生けに来ている。お茶も同様に地域のお茶の先生が茶道を児童に教えている。囲碁・将棋も地域の年長者の方が児童に教えている。

**そろばん教室**：毎週1回、放課後のそろばん教室を行っている。授業ではほんの数時間しか扱わない学習であるが、学力向上の面からも成果が出ている。級も取れる程にそろばんの力がついている。

## ② 防災に係わる教育

以下の2つの学年の学習では、防災教育の視点で学習を進めた。

第4学年理科「雨水の行方と地面の様子」の学習では、「雨水の行方と地面の様子について、水の流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、①水は高い所から低い所へ流れて集まること②水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあることを理解し、昨今の水害に関連させた学習を行った。この単元は、次期学習指導要領に提示された新しい単元である。

第5学年理科「流れる水のはたらき」の学習では、流れる水のはたらきと門司大水害、北部豪雨大水害とを関連付け、防災意識を高める学習を行った。ここでは、自然の仕組みや変化を知り、「自分で考え主体的に行動する力」「物事を多面的に調べ、総合的にまとめる力」「他者のよさを認め、自分の考えをよりよくしていこうとする力」を育成する単元構成を工夫し、指導に取り組んだ。

## ③ 環境に係わる学習

第2学年「生きものとなかよし大きくせん」の学習では、生きものを一人一人が飼育し、その生きものの立場にたってお世話したり、その気持ちを考える活動を仕組んだりした。単元の終末では、生き物を飼育してがんばってきたことや生き物について発見したことを1年生に向けて発表する活動を設けた。世話を続けたことの成就感を味わうことができた。また、環境について考える素地もできた。



① 生け花山月



① そろばん教室



② 雨水のゆくえと地面の様子



② 流れる水のはたらき

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

○新学習指導要領(平成29年告示) ○北九州市人権推進センター明日への伝言板
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

藤松小学校は常にユネスコスクールESDの観点「暮らす」「食べる」「生きる」を意識した教育活動を行っている。特に本校は理科の研究校として、理科の教材研究を行っており、ESDを意識した展開を計画している。例えば、1・2年生の生きもの単元では、一人一人が自分の生きものを決め、それを自分で飼育していく。4・5年生の雨水や河川を扱う単元では、昨今の河川の氾濫についての学習を位置付け、防災意識を高めるようにしている。同じようにして、6年生の土地のつくりを扱う単元では、昨今の地震を特に重点的に取り上げ、防災意識を高めるようにしている。このように、今ある学習活動とESDの観点を関連付けて様々な単元で学習を行っている。また、伝統文化等についてはクラブ活動や放課後の時間を活用して、活動を仕組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

常に教師がESDの観点を意識できるように、掲示をしたり、研修を行ったりしている。また、今ある教育活動をユネスコスクールのESDの活動として捉えて、評価していくようにしている。本校はすでにユネスコスクールの活動が教育課程に位置付けされており、物的環境や人的環境は充実している。学期ごとに児童、教職員ともに振り返りの活動が行われており、活動の工夫、改善の体制ができています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

北九州市ではどの学習においても「振り返り」の時間を設けることとなっている。ユネスコスクールの活動においても同様に、児童に活動を振り返らせ、評価をしている。また、1年に数回、北九州市内のユネスコスクールが集まり、中間報告や情報交換、実践発表を行い、意見交換をし、互いの活動を評価している。成果としては、北九州市内の小学校の中でも先進的な研究となり、公開授業を行うことができた。また、地域の人材を活用することで地域との結びつきが強くなった。課題としては、地域の人材も高年齢化し世代交代が望まれる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校は1年前より、北九州市アクティブラーニング推進校の指定を受けていることで、年に1回公開授業を行うこととなっている。28年度は、福岡県理科教育研究大会、29年度は北九州市アクティブラーニング推進校授業公開を行った。その中で、5・6年生については防災の視点で行ってきた学習を公開した。授業を参観した方からは、「参考になった」との感想がいくつもあった。  
また、北九州市では、ユネスコスクール報告書を作成し、冊子にし、北九州市の全小中学校に配布している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の人材を活用する際には、藤松公民館と連携している。  
理科学習においては、北九州市いのちのたび博物館、福岡教育大学、田植え活動においては、北九州市農政事務所と連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

本校は数年前より、理科5年「流れる水のはたらき」6年「土地のつくりと変化」において防災の視点で学習を進めている。27年度、28年度は国土交通省や河川財団の方が授業を参観し、新学習指導要領作成の参考となったと聞いている。どちらの学習も体験的な学習を重視し、カリキュラムを作成している。

「流れる水のはたらき」では、学習内容を発展させ、門司大水害と朝倉の水害の資料を集め、整理し、防災に結び付けた学習活動を行った。6年「土地のつくりと変化」では、北九州市いのちのたび博物館の学芸員をゲストティーチャーとして迎え、藤松小学校の校区の土地のつくりと学習内容を結び付けた学習を行った。発展として、土地のつくりと地震や火山の噴火等の自然災害を結び付けた学習を行った。

※チェック事項2-5に対応

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

年間を通しての常時活動…「生け花の先生による生け花」「小中連携の挨拶運動」「環境委員会によるペットボトルキャップ、プルタブの収集、節電の啓発」「黙って掃除の徹底」「放送委員会による北九州市人権推進センターCDの明日への伝言板の放送」

4月…クラブ活動（カルチャークラブ ゲーム・将棋クラブ）が始まる。  
6月…田植え、サツマイモの苗植え、地域清掃を行う 7月…平和学習では平和に関する学習を行った後、全校児童による千羽鶴折りを行う。今年度は長崎から語り部の方が来られ、講話を行う 5年生社会科見学では、日産九州工場、北九州市エコタウン（自動車解体）を見学し、自動車の製造とリサイクルについて学習する。9月…生活科生き物単元での生き物採集と飼育を行う。10月…今年度の長崎への修学旅行では、長崎市立城山小学校との交流を計画している。タイの小学生との交流も予定されており、日本の伝統文化の紹介を計画している。1月…地域の年長者の方と七輪体験や昔遊びを行う

その他、学期に一度、藤松保育園年長児と一年生との交流を行う。また、新学習指導要領理科を先行実施し、「雨水のゆくえと地面のようす（4年）」「流れる水のはたらき（5年）」「土地のつくりと変化（6年）」を防災の視点で学習を行う。

その他多数の学習を仕組んでいる。